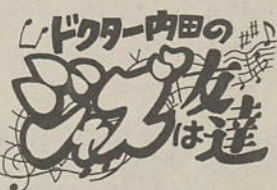


通称「ドクターズスタジオ」にお迎えしたジャズミュージシャンは数え切れないほどだけれど、おそらく僕の生涯を通じても忘れられない人——それがセロニアス・モンクだ。

### ジャズジャイアンツ

映画のタイトルにもなった名曲「ラウンド・ミッドナイト」の作曲者として

知られるモンクは、パーカー、ガレスピーらとともに「ビバップ」と呼ばれる革新的な音楽をつくり出した一人であり、モダンジャズの発展に寄与した功績



は計り知れないが、モンクの音楽に対する理念や感覚が、あまりにも時代に先んじていたために、広く理解されるまでには長い不遇と貧困の道のりを必要とした。だが今日、モンクの与えた影響の大きさを考えるとき、その存在はエリントン、パーカーに匹敵するといっても過言ではない「ジャズジャイアンツ」なのだ。岡崎に帰るとスタジオには、一九六六年五月十二日のこ

と。その日はまたま「ト・モンク・カルテットの名古屋公演と、当人気抜群の「白木秀雄クインテット」の岡崎でのコンサートが重なってしまった。迷ったあげく「白木クインテット」のメンバーには、終演後僕の家へ立ち寄るように連絡した上で名古屋の方に出席することにした。

△25▽

と「東京から来る道すがらモンクにドクターのことを話したら、ぜひお宅に遊びに行きたいと言っているがどうですか。」

何しろ奇行の人(つまり変人だ)

ね)で通っていて、その夜もピアノを弾いていない時はスティーヴ狭しと踊りまくっていた。これは大変なことになりそうだった。が、もちろん断る理由なんてある訳がない。

帰るまで待つように伝えた

## 録貫としさいらいかわ モンク様神持つ持せ併

「ナ」日野皓正(トランペット)大野雄二(ピアノ)稲葉國光(ベース)という面々「モンクが来るそうだよ」。それ本当？一瞬どよめいたね。何しろモンクといえはジャズメンにとっては神

ほどなく、まずサイドメンたちの到着だ。チャーリー・ラウス(テナー)ラリー・ゲイルズ(ベース)ベン・ライリー(ドラム)。顔ぶれがそ

ろとぎょそく楽器を取り出すのがジャズメンの常だ。ドラムがベン、ベースが稲葉、ピアノが大野というリズムをバックにジャムセッションが始まった。やがてスタジオ中がジャズの熱気でいっぱいになったころ、のっそりとモンクとその夫人が現れた。姿を

長いセッションがひとくきりするとモンクは、「ドクター、パーカーのレコードを聴かせてくれないか。」

えーっと思っただけれど、先年ニューヨークの「ジャズレコードセンター」に通ったあげく店の奥にしまっていた残を惜しんでいると、五十がほど先で車がとまり、一人毛

わいかったねえ。

お札の言葉に大感激

こつて時は過ぎ、再び車を連ねて名古屋に帰ることになった。僕は門のそばにたたずんで一行を見送りながら名残を惜しんでいると、五十がほど先で車がとまり、一人毛



ジャズの巨人、セロニアス・モンク

認めたミュージシャン、あれは録音「バードランドのパーカー」をかけると、やおらスピーカーの前に立ち耳をくっつけるように聴き入るのだ。そのうち司会者が「次の曲は、ジャズの高僧、JAZZがハハ」。体中がふるえだした。そうだったあの感激は一生忘れられるはずがない。「ありがとうよ。ミスター・モンクの方に行っちゃった。かク」

(内田修)